

日本語日本文学専攻の小論文は、問一では文章を的確に読み取り要約する力を問い、問二ではそれをもとに多様な考えを論述する表現力を問うものである。よって、問二においては解答例に代えて出題の意図を示す。

問一（二〇点）

【採点のポイント】

- ・ 本文の内容を理解できていること。
- ・ 要点がまとめられていること。
- ・ 文章表現のきまりに則していること。

【解答例】

言葉は私たちの考え方や行動を支配している。性差別を容認する社会では、性差別を表す言葉がある。たとえば、男性には Mr. という一つの称号しかないのに、女性には既婚か未婚かによって Miss と Mrs. を区別する。そのような男女を区別する言葉を使えば、人々は無意識的に性差別をしていることになる。アメリカでは性差別につながる言葉を見つけ出し、使わないようにしてきた結果、女性がより活躍しやすい社会へと変ってきたのである。（二〇〇字）

問二（八〇点）

【出題の意図】

敬語を含む日本語のコミュニケーションのスタイルや、日本文化、言語と文化、言語と社会の関わりは、日本語日本文学専攻に入学した学生にとっては常に意識すべき問題となる。高校までの授業では、敬語については使い方を教わったとしても、言語と社会の関わりについて考える機会は多くないのではないだろうかと考える。そのような問題意識を本文から読み取り、自分の意見を論理的に表現できるかどうかを問うものである。

【採点のポイント】

- ・ 賛否の対象となる敬語廃止論について正しくとらえていること。
- ・ 賛否を明示していること。
- ・ 自分の意見が論理的に述べられていること。
- ・ 文章表現のきまりに則していること。
- ・ 段落わけなど文章の構成が明快であること。